

特別支援教育部会

**令和7年度
8月例会報告**



ブロック名	月例会	参加人数	会場
特別支援教育部会	8月	181人	メープルイン幕張

『困っている子どもの背景と理解

～コグトレを使った具体的な支援』

講師：立命館大学大学院 人間科学研究科 高村 希帆 様

- 1 はじめのことば
- 2 講師入場・講師紹介
- 3 講演
- 4 お礼のことば
- 5 アンケートについて
- 6 おわりのことば

【経歴】

立命館大学大学院 人間科学研究科修了（修士）

臨床心理士・公認心理師

【主な著書】

「コグトレ実践集ー子どもの特性に合わせた導入事例」（三輪書店）

「ひらがなコグトレ」（東洋館出版社）

「すこしやさしいコグトレ」（三輪書店）

「1日5分で認知機能を鍛える！大人の漢字コグトレ」（東洋館出版社）

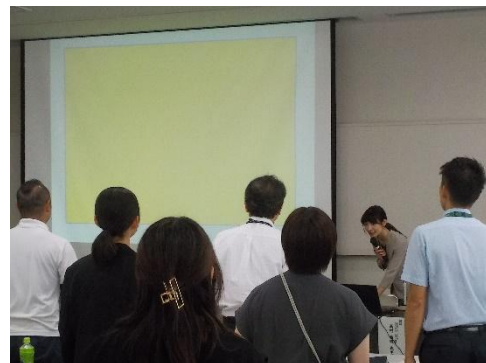
「特別支援教育の実践情報」（明治図書）など

【講義内容】

コグトレについて実践例を踏まえて実際に体験しながらのご講演だった。コグトレは、医療少年院にて精神科医の宮口幸治先生（現立命館大学教授）が、入所している子どもたちとの面接を通して得た知見に基づいて開発された、社会面や学習面、身体面の側面から子どもを支援するプログラムである。コグトレは認知ソーシャルトレーニング（COGST）、認知機能強化トレーニング（COGET）、認知作業トレーニング（COGOT）の3つのトレーニングから構成されている。認知機能の5つの能力である「記憶」「言語理解」「注意」「知覚」「判断・推論」を強化のために「覚える」・「数える」・「写す」・「見つける」・「想像する」領域からゲーム感覚で楽しみながら力を身につけることができる。講義の中で短期記憶を鍛える「何があった？」「●はどこ？」「最初とポン」や注意・集中力や処理速度を上げる「記号さがし」を体験した。体験することで、達成感や楽しさ、難しさなどを感じ、子どもの気持ちに寄り添いながら講義に参加することができた。子どもにどのような困難さがあるのかを把握し、子どもに合わせた認知機能の強化のために必要に応じてコグトレを活用することも、支援の一助となることを学んだ。



【講義の様子】



【認知作業トレーニングの実践】

特別支援教育部会

**令和7年度
6月例会報告**



ブロック名	月例会	参加人数	会場
A1 ブロック	6月	73人	千葉市内小学校

1 授業展開

ブロックテーマ 児童の実態に合わせた指導・支援の工夫～楽しい授業を目指して～
 体育科「跳び箱を使った運動遊び および 跳び箱運動」

2 研究協議

① 授業者より

- ・簡単ルーレットは、いろいろな場に行かせたくて活用した。
- ・発表ノートは、一人ひとりに動画を配布した。客観的にみるが必要だと思った。

② グループ協議

○場の設定について

- ・一方通行で行っていたが、サーキット形式にすることで運動量の確保ができるのではないかな。
- ・一方通行の良さもあるが、危険な場面があったのでルールの徹底が必要。
- ・場をもう少し絞ってもよかったのではないかな。

○ICTの活用について

- ・児童が自らタブレットの活用ができているのは、日常の指導の成果だと感じた。
- ・ルーレットにしていることで、いろいろな場を楽しみながら回ることができていてよかった。
- ・動画を撮ることだけでなく、見ることも大切だと感じた。

③ 講師より

○指導案から

良い点

- ・児童にとって魅力的なネーミング
- ・多彩な場（自己選択）
- ・グループでの学び（協働的な学び）
- ・めあてに向かって（自己決定）
- ・手本や自分の動画の活用（メタ認知）

改善点・疑問点

- ・児童個々の実態とめあての詳細
- ・準備・片付けの負担（普段から行えるか）

○本時の実践から

- ・様々な動きが見られたか動きが見られたか。
- ・様々な支援をしていたか。

ブロック名	月例会	参加人数	会場
A2 ブロック	6 月	50 人	千葉市内小学校

1 はじめの言葉

2 実践報告会・ソーシャルスキルモンスター、自分の中の弱い部分や苦手な部分をモンスターに見立てて封印する。

- ・つくしんぼうの家を参考にした工作、牛乳パックを使ったブーメランなど
- ・外国語活動アルファベットに親しむ、交流先の外国語が不安な児童に対して事前指導を行う。
- ・ドローンを活用したプログラミング活動
- ・三原色を使って絵を描く、パレットやバケツの使い方
- ・おすすめの教材の紹介、100 円ショップで買える教材
- ・自立活動の紹介ねじとボルトを使った手指の運動。ヘアブラシにストローを差す運動など
- ・国語 かるたを作る 分からない言葉や、感情を表す言葉を書き込む言葉の窓など

3 アンケート入力

4 連絡

- ・ふれあいカレンダーについて（搬入日、返却日）
- ・そごう作品展について（搬入票について、返却は搬入した学校へ）
- ・8，9月例会について

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Bブロック	6月	44人	千葉市内高等学校
1 高等学校説明 ・ 経営理念、学校教育目標 ・ 学校の特色（コース別履修内容、登校形態） ・ 校内サポート体制 2 中等部説明 ・ 中等部の特色 ・ フリースクールとしての役割 3 質疑応答 ・ 卒業後の進路 ・ 年度初めに行う習熟度確認テスト後の、具体的な学習サポート内容 ・ 特別な配慮を要する生徒に対する具体的な支援 ・ 中等部（フリースクール）に通学する際、在籍学校での出席扱いについて ・ 年間でかかる費用 4 連絡 ・ R7 年度合同予餞会について 5 施設内見学			

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Cブロック	6月	39人	千葉市内小学校

1 授業展開（同質またはモニター視聴）

構音指導教材の開発と活用 ～個々の課題への対応と汎用性を兼ね備えた構音指導教材の作成～

ことばの教室 3教室同時展開授業

2 協議会

①テーマについて（授業者より）

教材を作成する際は、4つの条件（・構音定着のために必要な反復練習を十分に兼ねることができること ・単語の練習も短文の練習もできるなど、いくつかの練習段階に対応していること ・一人の児童だけでなく様々な児童の指導に活用できる汎用性があること ・児童が楽しく意欲をもって取り組むことができること）が全て満たされていることを基準に開発してきた。授業の中で扱った教材が児童の実態に適した教材になっていたか、担当者の活用の仕方が適切であったかどうかを見極めてもらいたい。

②授業者より

・ことばの教室1

教材：複雑な教材、勝負がつく教材だと発音の意識が下がるため、簡単な仕組みで楽しくたくさん練習できる教材を選んだ。

・ことばの教室2

教材：置換が改善し、般化を目指しているため、急いでいるとき、考えているときでも正しく発音できることを目指した教材を選んだ。

・ことばの教室3

教材：般化を目指しているため、遊び、会話の中でも正しく発音できることを目指した教材を選んだ。

③参加者の質問、感想

- ・どの教材もネーミングのセンスがとてもよい。
- ・児童の集中力が続くように、楽しい中でもたくさん練習し続けていた。意欲的に参加していた。
- ・本児の集中力が続くよう教材や学習の順序を工夫したことが効果的だった。本児が意欲的に参加していた。
- ・発音に対しての即時評価がなされていた。ゲームの中でも自分の発音に気を付ける様子、耳を傾ける様子が見られた。
- ・ことマッチ ふせんの色を変化させ、語頭・語尾・語中を分けられている。縦横たくさん読ませたり、片付けの時も読ませたりと何気ない動作の中でたくさん発音練習ができるようにしていた。単語練習から短文まで発音練習ができていた。1つの教材を使いこなすためには、教材の意図と構音に対しての見通しができていることが大切だと感じた。
- ・ことみつけ 1つの教材で3種類のゲームが展開されていた。その中でたくさん発音練習が自然となされていた。

〈諸連絡〉

- ・千葉市ことばを育てる親の会からのお知らせ
- ・ブロック研修会のお知らせ（言語 7/2）
- ・夏の研修、吃音キャンプのお知らせ

9月例会

千葉市内小学校にて 10月の授業研究の指導案検討

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Dブロック	6月	20人	千葉市内中学校
「県教研の発表内容の検討と教材紹介」 講師 養護教育センター 指導主事 1 県教研の発表内容「LD 等通級指導教室の進路学習～ICT を活用した授業・教材の共有と発展～」について（千葉市内中学校教諭） ・中学３年次に進路学習や進路決定がスムーズにできるようにするために、課題設定をした。また、キャリア教育として、小学校高学年には中学校生活の学習に取り組んだ。 ・教材の作成と教員間の共有を行い、教員の「専門性の向上」「若年層・経験の浅い教員のスキルアップ」を目指した。 ・学習の結果、進路に「不安」「心配」と答えた生徒は、前向きな気持ちをもつことができた。 ・課題は、進路学習はキャリア教育と自己理解と並行して行う必要がある。 ・在籍校の指導に合わせて、LD 通級指導教室で指導する必要がある。 2 県教研の発表に内容について講評 養護教育センター 指導主事より ・通級で行う進路指導は、在籍校の指導内容と繋がるように配慮する必要がある。 ・小学校のキャリア教育で大切なことは、中学校のイメージをもてるようにすることである。 ・保護者と児童生徒への進路学習の情報提供時期については、保護者や児童生徒の状態によって変わる。 ・ICT の教材共有については、そのまま使えるものと情報を更新してから使うものとを判断すること。 3 教材紹介（グループ協議） ・SST スキルのカードゲームは、友達の許せないことについて知り、自分との違いに気が付く機会になる。 ・メイクテンは、４つの数字を使って１０の答えにするゲーム。四則計算の学習に取り組むことができる。 ・ボディスケールは、自分の手や足など様々な長さを図ったり、手を使って身の回りの物の長さを図ったりする。この学習を通して、自分のボディイメージや距離感を身に着けることができる。 ・１００円均一で買える表情カードのゲームは、人数に関係なく遊ぶことができる。 ・文字隠しカードは、三角や四角などの形で切り抜いたもの。文字の上に置いて、形を想像して文字を読んだりする学習に使う。 ・ブロックの形作りは、教員が見本を作り、その作り方を言葉で児童に伝える。話を集中して聞く力やコミュニケーションスキルを学ぶ機会になる。 4 教材紹介（グループ協議）について講評 養護教育センター 指導主事より ・ボディイメージは、成長と共に変化するため、その感覚を確認するためにも必要。 ・SST の学習は、自分とは違う意見があることを知る機会である。ぜひ小集団指導で行いたい。 ・指導のアプローチの仕方は、子どもの興味関心を向けさせること、子どもの苦手さに直接向き合うことなどの方法がある。 5 謝辞（千葉市内中学校教諭） 6 その他 ・８月例会のお知らせ			

特別支援教育部会

**令和7年度
5月例会報告**



ブロック名	月例会	参加人数	会場
A1 ブロック	5 月	6 0 人	千葉市内小学校

1 推進委員より

令和 7 年度年間計画、実践報告と授業研究について

日時	内容	会場	講師
5/20 (火) 15:30～	前半：指導案検討 後半：ICT 活用の実践、 サイトやアプリの情報交換	市内小学校	市内小学校 校長
6/17 (火) 14:00～	授業研究 体育 授業者：市内小学校教諭	市内小学校	指導主事
9/16 (火) 15:30～	市内特別支援学校見学	市内小学校	
10/21 (火) 14:00～	市内特別支援学校見学	市内小学校	
11/18 (火) 14:00～	実践報告	市内小学校	
1/20 (火) 15:30～	相談会 授業、教育課程、総合展、 げんきキャンプ等	オンライン	

2 指導案検討

体育「跳び箱運動」

○ICT の活用 ○学習カード ○場の工夫 ○実態と授業づくり を中心に検討を行った。

3 グループ協議・発表

4 講師より

5 情報交換

ICT 活用の実践・サイトやアプリの情報交換

市教研 特別支援教育部会 例会報告書

ブロック名	月例会	参加人数	会場
A2 ブロック	5 月	43 人	千葉市内小学校
1 自己紹介（学校名、名前） 2 年間計画について ・授業研（今年度はDグループの中から選出） ・実践報告会について 3 情報交換会 ○絵をかく会 題材（手形、教室のかめ、シャボン玉で絵を描く）は学年に合わせるのか、支援級独自で決めるのか。肢体不自由の児童は保護者に協力してもらい、教材を工夫している。千葉市に関連した絵について、題材を何にするのか迷っている。 ○げんきキャンプ 児童の実態に応じて、あまり詰めすぎないようにプログラムを作ると良い。雨天時のプログラムについての情報共有 ○成績 3次キャビネット、教務システムをどう使って成績を作るのか。 ○会計 個別で計画するかまとめて計画するか、どちらの方法がよいのか。価格が高騰しているため計画が難しい。 ○運動会 運動会練習中、教室に残る児童の支援体制をどうするか。校内の教室配置も大事。職員室の隣なら見てもらいやすい。 ○水泳学習 苦手な児童（顔が濡れるとパニックになる。水に入れない。）はどうしたらよいのか。→大きめのビート板を用いる。苦手意識がどこにあるのかを見極める。担任以外に何人ついてもらえるのか。 4 情報共有（グループ発表） 5 連絡 ・作品展について 作品搬入表は作品の裏に貼る。搬入期日が過ぎた場合は、そごうに直接持っていく。要綱を必ず確認する。 ・げんき交流会について 保護者と一緒に現地集合、現地解散が基本である。弁当は食べてもよいがスタンドに限る。 籍が通常級で特別支援学級に交流に来ている児童の参加は学校長判断になる。			

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Bブロック	5月	39人	オンライン

- ・R7年度Bブロック活動計画（案）を提案し、会員の承認を得た。
- ・クラスルーム、会員名簿について再アナウンスを行った。

市教研 特別支援教育部会 例会報告書

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Cブロック	5月	39人	オンライン

1 R7年度研究テーマについて

「学級で生き生きと生活できる子どもの育成を目指して」

昨年度と同様、今年度もこの研究テーマを掲げて各自具体的に研究に取り組んでいく。

主題を受け、自分なりのテーマを具体的に決め、1月の例会時に小グループで振り返りを行う。

2 R6年度研修内容振り返り

昨年度の研修内容を受け、今年度の研修では、新しい担当者も増えてきたので、上程資料の書き方や検査方法などを学習したい。昨年度実践したS Tの先生による実技指導、指導実践も直接受けたいという希望があった。

3 R7年度研修内容

年間計画についての確認をした。

4 授業者決定

6月例会 授業者：登戸小3名に決定、展開場所、授業内容、授業内容の視点の確認

11月例会 授業者の決定 院内小1名、講師は未定

5 質疑応答

今年度の状況報告書について

ブロック名	月例会	参加人数	会場
D ブロック	5 月	19 人	オンライン

1 主題と年間計画について

・特別支援教育部会研究主題

特別な教育的支援を必要とする児童生徒の理解と支援・指導のあり方

・D ブロックの主題

子どもの特性に合った指導について

・年間計画

テーマ	月日	内 容	会 場	助 言 者
子どもの特性に合った指導について	6 月 17 日 (火)	県教研の発表内容の検討 教材紹介	市内中学校	養護教育センター指導主事
	9 月 16 日 (火)	指導に関する悩み相談	オンライン	なし
	10 月 21 日 (火)	市内私立高校と放課後等 デイサービスの見学	市内私立高校と 放課後等デイサービス	市内私立高校 放課後等デイサービス 職員
	11 月 18 日 (火)	市内特別支援学校の見学	市内特別支援学校	市内特別支援学校 職員
	1 月 20 日 (火)	県教研の報告 一年間の振り返り 次年度の見通し	オンライン	なし

2 自己紹介

3 諸連絡

(1) 次回について

- ・6 月 17 日 (火) 14:00 から市内中学校で実施。持ち物は上履きと紹介する教材。
- ・駐車場有り

(2) 予算について

(3) classroom について

- ・オンライン研修や連絡で使用するので、各自で確認。